成人式・おめでとう

# 晴れておとなの仲間入り

## 祝福された八百七十二人

### みなぎる若さ

おとなとなった自覚と、自ら生き抜こうとする若い人たちを祝い励ますための成人式は、一月十五日、市民体育館で約六百人が参加して行なわれました。

ことし祝福された成人は、男四百八十七人、女三百八十五人で、広い式場いっぱいに若さをみなぎらせた若きおとなを代表して、岡本一郎君と大野明美さんが青年の誓いを述べ、金堂市長、井上国会議員のお祝いのことば来賓の紹介があり、ことし始めて市が募集した「成人となって」の感想文に、最優秀賞となった浜田君恵さん（前浜）の感想文の朗読と表彰式が行なわれ、そのあと青年の合唱で式をひとまず終り、ひきつづいて由本広報委員長のスライドを交えた「正しい男女の交際」という講話とレクリエーションのフォークダンスにたのしいひとときをすごしました。なお、当日は午後三時まで市献血推進協議会の人たちが成人を記念しての愛の献血の呼びかけを行ない、かなりの成果をあげました。

（写真　右上は青年の誓いを述べる大野さん、左上は祝福を受ける成人たち、右下は献血に協力する人たち）

## 成人となっての感想文

### 最優秀賞に浜田君恵さん

ことし成人式を迎かえましたみなさんから「成人となって」の感想文を募集しましたところ、応募者は僅か二十人余りでしたが、それぞれ二十歳の喜びと、成人への期待と決意のこもったもの〝密度〟の結果かりでした。

最優秀賞に、前浜の浜田君恵さん、佳作に、田村の末政淑子さん、浜改田の溝淵光江さん、十市の前田秀子さんの三人の感想文が選らばれました。

最優秀賞となりました浜田君恵さんの感想文は、二十歳の実感とその決意が強く読みとられて、心あたたまる感がしました。ただよくをいえば選挙問題にもふれていただきたかったと思います。

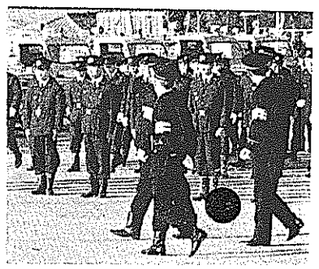
佳作となりました末政淑子さんは、農家の嫁として生きるよろこびと覚悟が文章にみなぎっていて心うたれるものがありました。明るい家庭を建設されるよう期待します。

溝淵光江さんの感想文は、まとまった文章表現で、平凡のよさが読みとられ、素直な女性らしさがあふれています。やや迫力にとぼしいのは残念です。ぐんぐん大人の世界へとびこんでいただきたいと思います。

前田秀子さんの文は、成人の喜びと感激が強くにじみでていて、きびしい社会に処する覚悟も立派です。文をもう少し見返し、読みかえしてもらいたかったと思います。

惜しくも選外となりましたが、川田雅二君の感想文は、淡々とした文章の中に、二十歳の決意がよくあらわれています。正々堂々と大人の社会への仲間入りをしてください。

なお、締め切り後に送られてきたものが数点ありました。そのなかには優秀なものもありましたが審査後でもあり、せっかくの熱意にむくいることができませんでした。こんご期日のあるものは、その期日を守られますようお願いします。



### 士気あがる出初め式

市と介良村との連合消防出初め式は、一月六日午前八時から日章小学校グラウンドで行なわれました。

当日は市の十二分団、介良村消防団の団員三百人あまりが参加して、服装、装備の点検、消防署員や、琴平、後免、介良消防団員らの模範操法のあと、ホース巻き、服装競技、つるべ落しなどの消防競技を行なったのち、優良団員（二十一人）の市長表彰などがあり、午後三時すぎ出初め式を終りました。

なお、消防競技の成績、表彰された優勝●はつぎのとおり。

一位＝北部、二位＝香南、三位＝上倉

▽優良団員△

藤宗俊雄（日章）、竹村弘重（後免）、前田輝征（大篠）、竹島幸雄（同）、依光和夫（東部）、福岡彰三（西部）、安松祥明（香南）、簡野一人（同）、沢田静男（南部）、松木淳二（同）、溝淵正（南海）、福重長弘（同）、宮崎孝雄（琴平）、中村豊照（同）、西原貞（岡豊）、窪田能徳（同）、吉川俊輔（北部）、坂本満雄（同）、村井教喜（同）、竹内井水（上倉）、佐竹正寛（同）

### 心身障害児（者）の終身扶養年金制度へぜひ加入を

県に心身障害児（者）扶養財団がつくられ、心身障害者のための終身扶養年金制度を実施することになりました。

この年金制度は、独立して生計を営むことのできない心身障害児（者）を扶養している配偶者、直系血族、兄弟姉妹、その他適当と認められたものを加入対象者（被保険者）とし、保険料の三分の二を県と市が補助し、三分の一（月額六百円から七百円程度）を加入者が負担（減免の措置あり）することによって、被保険者（保護者）が死亡または一定の疾病になったとき、心身障害児（者）の扶養資金として年金を毎月二万円づつ障害児（者）の終身にわたり支給されます。

加入資格は、四十五歳までの方（ただし、四十四年度に限り六十歳まで）申し込みなどくわしいことは福祉事務所社会係（有線十二の二）へおたずねください。

**申込み期限2月末日**



成人式・おめでとう

## 最優秀感想文

# 成人となって

浜田君恵

今まで成人式など他人のことのように考えていた私ですが、この一月十五日には晴れて、おとなの仲間入りをする記念すべき日がやってきました。だが、二十年間というもの私は、あまりにもぼく然と社会を見てきたようだ。社会とは世間とは、あんなものだ。こんなものだ。と思って見てきました。でも成人式を迎えるにあたって、今まで自分がただ、ぼう然とすごし見つめてきた社会や世間を深く考え直してみる必要があるようだ。

「いつまでも十代でいたい。」と友達と議論していても二十代には、自己をよくみつめ今までできなかったこと、知らなかったことを経験してみたいなと夢みていた私です。

まず一番私達に身近なことは、隣人関係だと思います。近人との交際をなくしては、私たちの生活は、成立しない。隣人愛があってこそ我というものが存在するのではないでしょうか。

「近所の人や知人には低姿勢で望み、我というものを高く評価してはならない。」これは私が中学校を卒業する時、恩師に繰り返しいわれた言葉です。

人間は誰でも我というものを高く評価するきらいがあり、成人式を迎えるにあたって今までの自分を深く反省すると同時に、貴重なこの言葉を胸に刻みこんでいる現在の私です。確かに口でいうのは容易いが、いざ実行に移すとなると、なかなかできないものである。

現在、社会でもっとも関心を集めているのは、なんといっても学生の紛争ではないでしょうか。同世代の学生の紛争に私は何か割り切れないものを感じます。紛争の根本は、〝社会のためだ〟そうだが、一体彼らは社会に対し何をしているというでしょう。教師や同僚あるいは両親の意見には耳を傾けず、暴力的行為をすることは、あの人たちが主張するところの根本を誤まってはいないだろうか。同じ人間だもの。話合いで解決できないことはないように思われるが。（これは私の考えが甘いかもしれない）

私は〝社会のため〟として〝奉仕〟という言葉をあげたい。骨身を惜しまず他人と労苦をわかちあい、他人と共に喜び、楽しみあるいは悲しむことができたなら、どんなにか素晴しいことでしょう。

「いうは易し行なうは難し」宇宙にも行けるという現在、人間には不可能なことはないのだ。現在の世の中は悪いことを平気でする人が多い反面、良いことを進んでやる人が少ないように思われる。それは、恥ずかしいという先入観があるからだ。このことは、良いことをしてもその人を称賛しようとしないで、周りの人達が冷かしたりするから恥ずかしいのである。だから、まず恥ずかしいという先入観を捨て勇気を持ち、他人と協力しあっていかなければならない。自分が正しいと信ずることは勇気と誇りを持って実行してゆくことのできる人間になりたいと思う。

二十歳（むしろ十代の終りといった方が良いかもしれないが）になると、大きな顔をしてしなければいけないことのように、我も我もと酒やタバコを飲み始める。こういうことは試みなくても、現在の世の中に生きていくためには、一向に差支えがない。こんなことをするかわりに、何か社会のために役立つことをやればよいと思う。奉仕、慰問等。私たちの周りには、もっともっと社会のために汗を流す喜びがあるはずだ。

就職して社会にで、他人の世界に飛び込んでいく（いわゆる冒険的な）行動を人間は、一生を通じて必ず一度は経験する。そんな時こそ自分を見つめ他人を見つめ、我そして他人を生かす絶好のチャンスなのだ。お互いに信頼し合ってこそ真の生活が成立するのだ。「自分さえ良ければよい。」という人間は現在の世の中では通用しないのだ。

まず、二十歳になった現在、私たち若人が力を合わし、社会のためや集団生活のために、一致団結することが先決なのだ。

最後に、私はこれからの長い人生を〝うそ〟のない人生にしたいと思います。